



## 最後の切符を手にしたのは、棟梁砂川!

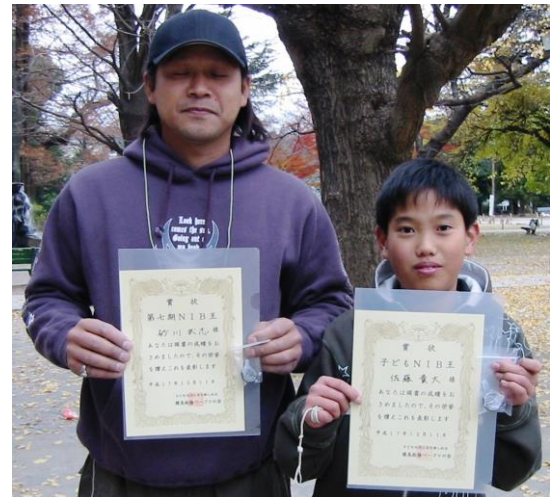
### 第七期N I B王戦を大差で制覇、子どもは混戦の末タカヒロだ

前日の小春日和が嘘のように凍てつく寒さの12月11日(日)、板橋平和公園で「もちつき&第七期N I B王戦」を開催した。腹痛ハルクの姿が痛々しい、単なる飲みすぎでもないらしい。作務衣師岡は足を引きずり無念の不参加、Mr.高橋はといえぼかぜをこじらせ、いつもの勇姿がここにはない。病人続出のこの日、何やら波乱含みだ。

セイロから立ち上る湯気の向こうで、トシ田口が背中を丸めて暖を取る。超人後藤がもち米をこね始めると、子どもたちが臼の周りに集まり出した。N I B恒例「年の瀬のもちつき」だ。ヨイショ、ヨイショ、ペッタン、ペッタン、神様にお供えして、感謝の気持ちを伝えようね。ご協力いただいたお母さん方、ありがとうございました。お腹いっぱい食べたら、N I B王戦の始まりだ。6人同時入れはむずかしいが、今年最後のタイトル戦、取ればグラチャンのシード権、誰が笑って、誰が泣く。

2005年を締めくくる戦いに参加したのは48名。この中から準決勝に進めるのは12名だ。予選で惨敗だったのは北馬中郎とイクヤ平井の二人、20回戦って0点は寂しい。「カイチョー、特別賞はないの」という北馬の背中を、ふっと北風が吹き抜ける。来年は挽回してくれよー。また、一次予選で12点獲得した篠トモは、二次予選で痛恨の0点で惜しくも敗退。この辺りが篠トモの欲の無さかなあ。逆に絶好調だったのはトキヤとグッチ。勝点30のトキヤは敵なしの貫禄だ。グッチも20点を獲得し余裕の準決勝進出だ。悲喜こもごもの予選を突破したのは、トキヤ、グッチ、ダイゴ、タカヒロ、ハジィ、篠ケンの子どもと、棟梁砂川、中島名人、ホッシー、アキラ、シャンソン中島、そして同点決勝を勝ち上がったトシ田口の12人だ。女流が一人も残らなかったのは残念。雰囲気呑まれたのかなあ、チカラはあるのに。

その準決勝Aブロックはまずトキヤが3点ゲットするが、じりじりホッシーとトシ田口が得点を重ねる。しかし初登場のハジィとタカヒロが一人残りで大逆転、中島名人とともに決勝進出を果たす。ベテランもタジタジだあ。そしてBブロックはアキラが地道に得点を重ね、こちらも初登場で決勝進出かと思われたが、グッチ、篠ケンが追い上げ、前半得点を重ねた棟梁砂川とともに決勝へ進む。決勝進出者はハジィ、タカヒロ、篠ケン、グッチの子ども4人、棟梁砂川と第五期チャンピオン中島名人の6名と決まる。それにしても、子どもがツエーなあ。



棟梁砂川、タカヒロ おめでとう!



迎えた2005年ラストを飾る決勝10番勝負。いきなりタカヒロが3点ゲットでリードするが、ハジィが一人残りと同点。初登場の1年生は怖いもの知らずだ。ここで篠ケンが2点獲得し追いつこうとするが、ここからおとながコツコツ貯めはじめる。昨年チャンピオンの中島名人と棟梁砂川だ。名人は昨年同様、床の途中でピタット止まる。リキがあるから高みの見物で引き分けねらいだ。棟梁はさらに左入れてパッカン防止というオマケつきだ。これが功を奏して仲良く引き分け3回でトップをうかがう。8回戦終了時点で勝点4のタカヒロと棟梁がトップ、しかしまだ全員に優勝の可能性がある。6人の気迫が寒さを吹き飛ばす。この緊張の一瞬を棟梁が逃さなかった。パキーン、見事一人残りで勝利を決定付ける。終わってみれば勝点9でダントツのトップ、悲願の初優勝を手に入れる。11月には「大森ほんこ」で日本一に輝いた棟梁砂川、手強くなってきたぞお。



シリーズ **田口コレクション** その24



戦後のプロ野球復興を支えたスーパースター大下弘。高く舞い上がり虹を描くような美しく華麗な本塁打が当時の野球ファンを魅了した。東急セネターズと西鉄で活躍し、数々のプロ野球新記録を樹立した。当然、ペーにその名が刻まれる。一つひとつ書体が違うのが分かるかな。

